

## 秋田中学校 校歌

(1) 天上に浮かぶ太平山、  
姿は遠く三千里余尺、  
長は流れる六十幾里。  
海より地勢行(様物川波)。

(2) 嵐と夜と無事の故、  
紅葉日は月は願す男の、  
わが身の秋井七百健兒。

(3) 鷺風(信濃ふるの巨量)  
秋田の士氣(士氣)驚か  
先跡(さきあと)木暮(木暮)望  
少(すこ)ば(すこ)健兒(けんじ)共進進。

(4) 金鐵(きんてつ)の如く(陽空)、  
精神(じんし)萬々(まんまん)勝(かつ)く、  
樹木(じゆもく)繁茂(はんもう)、  
ちれを修(み)め(たま)てく。



明治六年、秋田市日新学校内に洋学科が増設され、洋学校と称された。これが本校の滥觴である。今日まで卒業生は三万人以上、元

国際連合事務次長の明石康、元東京大学総長の佐々木毅、元プロ野球選手の石井浩郎など、多彩な人材を世に輩出している。

校歌が正式に制定されたのは、

旧制秋田中学校時代、創立から四十九年後の大正十一年。作曲は、童謡「どんぐりころころ」で知られる札幌市出身の作曲家梁田貞（1885～1959）。作詞は、仙台市出身の詩人土井晩翠（1871～1952）である。

代表作「荒城の月」で世に名高い仙台市出身の詩人土井晩翠（1871～1952）である。

秋田高校のキャリア教育のテーマ「わが生わが世の天職いかに」、「おのれを修めて世のためつくす」

これは、校歌一番、四番の一節を抜粋したものである。在校生

にはこのテーマが誇りをもつて受け入れられている。卒業生にも、「社会貢献」、「自主自律」を歌つたこの一節は人気が高い。

多感な青春期に、繰り返し歌つた校歌は、座右の銘のごとく人生の指針となる。青春期のみならず生涯を通じて、「わが生わが世の天職」を自らに問う質し、「おのれを修めて世のためつくす」気概と使命を、折りに触れ自覚する卒業生は少なくない。それ故、校歌に惹かれるのだ。自律、利他こそ己をいかすというこの高尚な理念は、本校の不变の教育目標「品性の陶冶」で象徴的に表されている。時代を超えて、いつの時代にも脈々と受け継がれるこの「校歌の精神」は、無形の宝であり続けるのである。

（文責 副校長 今井智幸  
(平成27年度まで勤務)

こちらのコーナーでは、貴重な品物、保存指定の建物など、学校で受け継がれている価値ある一品を募集しています。学校自慢の一品、あなたの「学校のお宝」を是非ご紹介下さい。ご連絡は、chuto@mext.go.jpまで。

# 学校のお宝

（秋田県立秋田高等学校）

# 土井晩翠筆 校歌